

子どもを水の事故から守るために

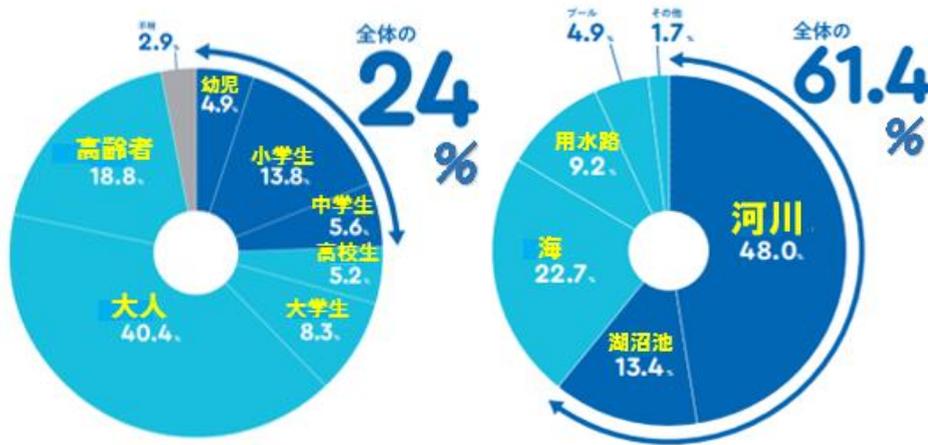
出典「No More 水難事故 2022 川の中や水際などにおける水難事故を防止するための対策 (公益財団法人 河川財団)」

水難事故件数の約半数は夏休みが含まれる7～8月に集中しています。夏休みは家族でバーベキューやキャンプをしたり、釣りに行ったりと河川に近づく機会が増えます。子どもたちが河川に対する正しい知識を身につけ、安全に留意したうえで河川に近づくように家庭でも確認をお願いします。

中学生以下の子どもの水難者

子どもの水難死亡事故

<2003～2021>



中学生以下の子どもの水難者数は全体の1/4

子どもの水難死亡事故の約6割は「河川」と「湖沼池」

行動区分別の水難者数 (人)

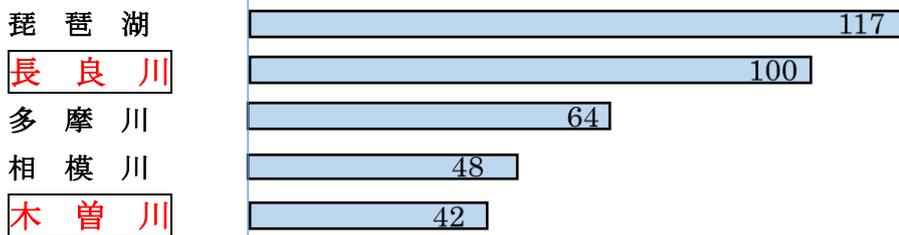
<2003～2021>



川遊びや魚とり、釣りをしているの事故が多い。川の近くを歩いていて足を滑らせての事故など、**水際等の陸域にもリスクがある。**

水難事故が多発している主な河川 (件)

<2003～2021>



全国的にも長良川や木曾川の水難事故の件数が多い

ライフジャケットを着用しよう！
頭部が水面から上に出る！

今年の夏も大変暑い日々が続いています。涼しく快適に遊びたいという思いから、川や海で遊びたいというお子さんもいるかと思いますが、しかしながら、子どもたちだけで川や海で遊ぶことは非常に危険です。子どもたちの安全のためにも、子どもたちのみで川や海へ行かせないようにしてください。また、ご家族で行かれる際も、急な増水の危険があることや水際にも危険が潜んでいることを理解し、お子さんから目を離さないようにしてください。充実した夏休みにするためにも、安心・安全を大切に、十分に気をつけていただきたいと思います。よろしくお願いたします。